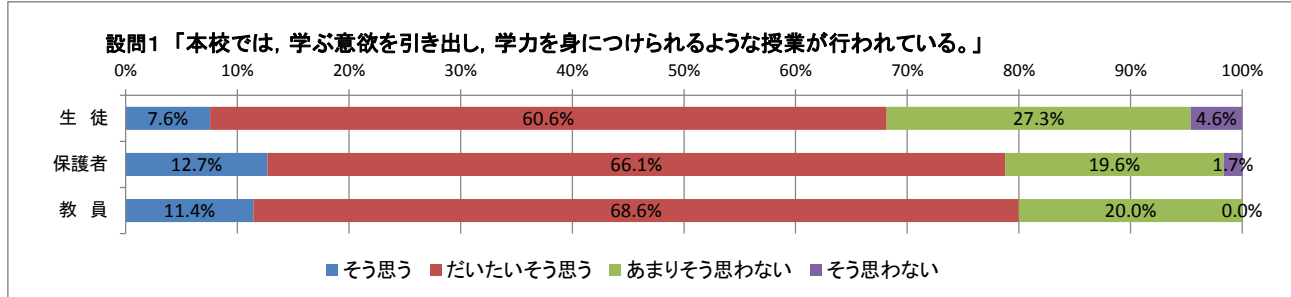
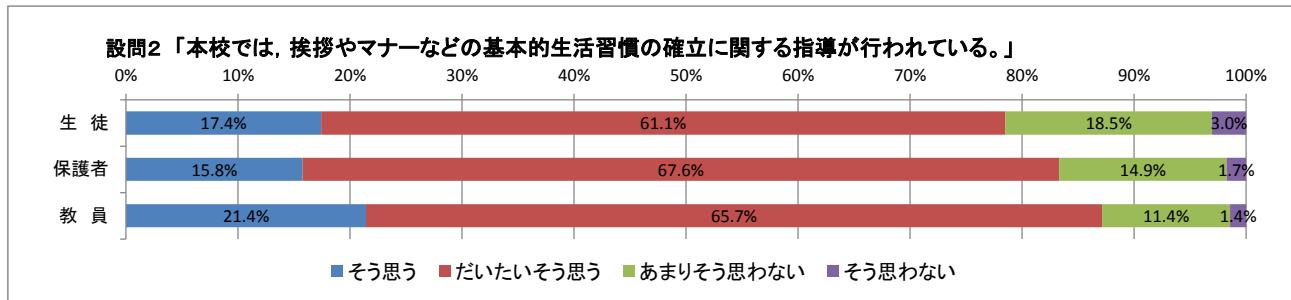


平成29年度 学校評価「設問毎」分析と対策



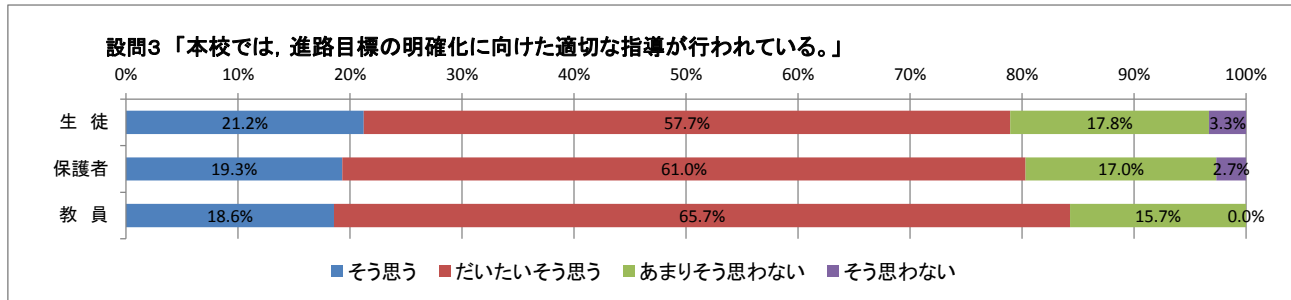
分析と対策

「わかりやすい授業」に対する肯定的評価は、昨年度に比較して三者とも低くなっている。特に、生徒の3分の1が否定的な評価をしていることは注目に値する。教員は授業づくりの労を惜しまない。にもかかわらず、その5分の1が自らの実践に対して否定的な回答を寄せている。両者を併せ考えると、授業成立の根底に認識の相違が横たわっている可能性が高い。新しく公示される学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の確立が求められることになる。授業者は生徒の学力的実態をより一層的確に捉え、生徒が求める授業を実践できるよう努力しなければならない。



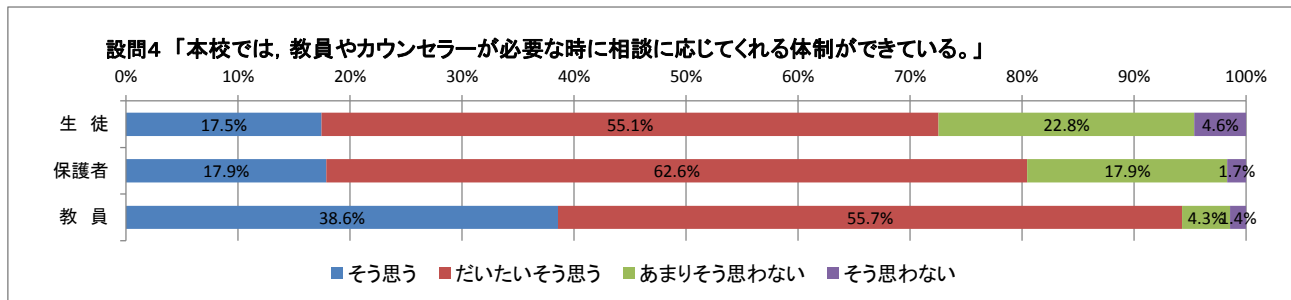
分析と対策

本校では毎朝、昇降口等で各学年の教員が声掛け・挨拶運動を行い、放課後は交通安全委員の生徒と教員が自転車事故の多い坂道に立ち、安全運転を呼びかける活動も行っております。また、長期休業明けの服装・頭髪チェックに加え、各クラスにおいて週1回身だしなみチェックを行う等、基本的な生活習慣を確立させるための指導に力を入れており、それらの取組がアンケートの結果に表れていると思われます。また部活動に取り組む生徒等を中心に率先して挨拶する傾向にあり、本校生徒には挨拶を交わす習慣が根付いていると思われます。このような取組を今後も東西キャンパスでしっかりと進めてまいります。



分析と対策

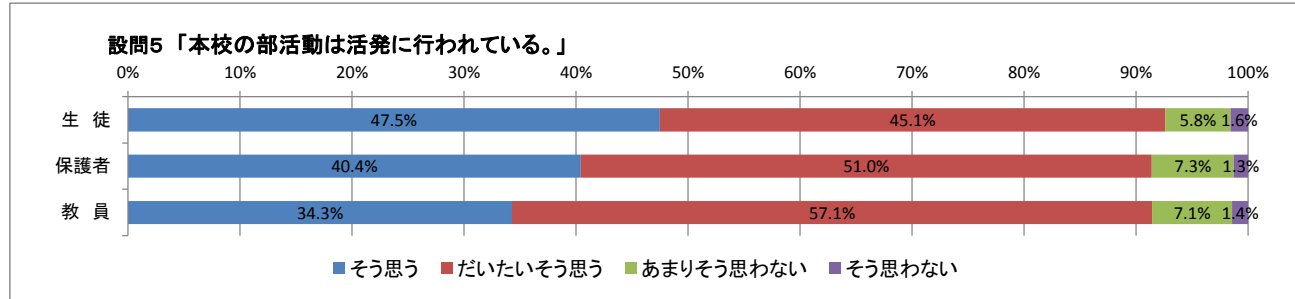
肯定的評価が8割近くあるが、生徒・保護者の評価は昨年度より若干低下した。3年生は進路に向けて様々な努力を重ねたが、その姿が下級生達には見えにくいという環境にあるため、進路状況やキャリア観育成について、積極的な情報発信等が必要になっている。国立大から就職まで幅広い対応が必要な進路多様校として適切な指導を1年次から粘り強く行いたい。今年度から進路の手引きに3年間の進路指導計画を提示し、進路目標の明確化とその実現に向けた見通しを持てるようにしたが、その活用法や内容について再度検討したい。各学年の進路行事についても常にPDCAサイクルを意識し、その後の指導に反映させたい。



分析と対策

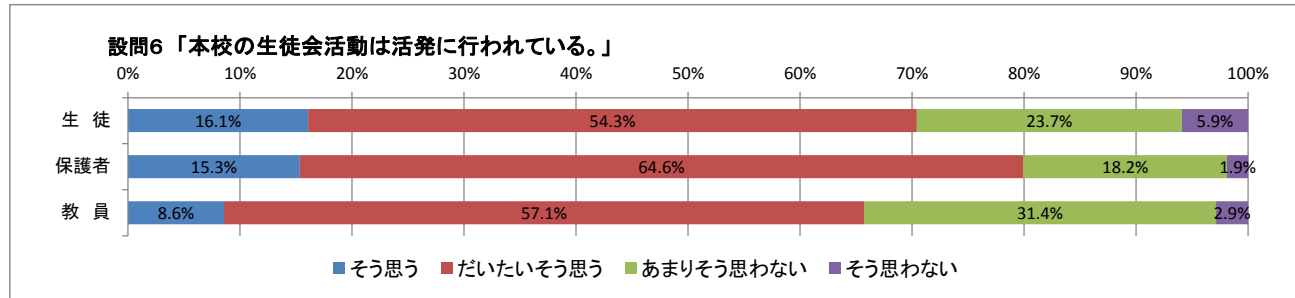
◇カウンセリングについて：一昨年の評価結果を受けて、昨年度同様、入学式でのカウンセラー紹介や学年PTAでのPR、カウンセリング便り「泉ヶ岡」の毎月発行とホームページやほけんだよりへの掲載、案内の教室掲示等、広報活動に努力してきた。その成果もあってか、今年度も保護者からの問い合わせや来談が多く、また、生徒・保護者共に利用数も増加していることから確実に認知度は上がっている。
◇設問4は多くの生徒・保護者が、担任や教員に対する設問と捉えて回答していると思われる。否定的な評価を重く受け止め、全職員で生徒の話を聞く努力が必要と思われる。

平成29年度 学校評価「設問毎」分析と対策



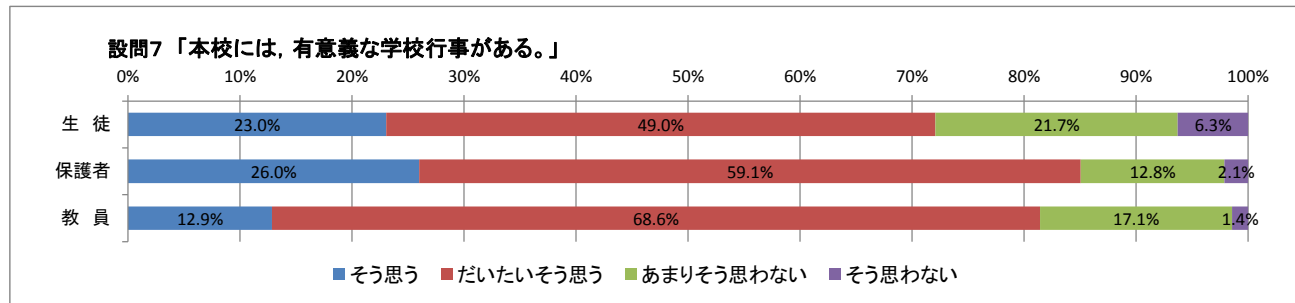
分析と対策

本校では東西両キャンパスの施設設備をフルに活用し、多種多様な部活動が熱心に活動しております。部活動は人間形成や人間関係の構築、精神的な鍛錬等、授業だけでは得られないものを身につけることができる重要な活動と考えており、力を入れております。そのような取り組みがアンケートの9割以上の肯定的評価につながっていると思われます。今後も高いレベルで学業との両立を図れるよう工夫しながら、またご家庭との連絡・協力が密に取りながら、質の高い部活動を目指したいと考えております。



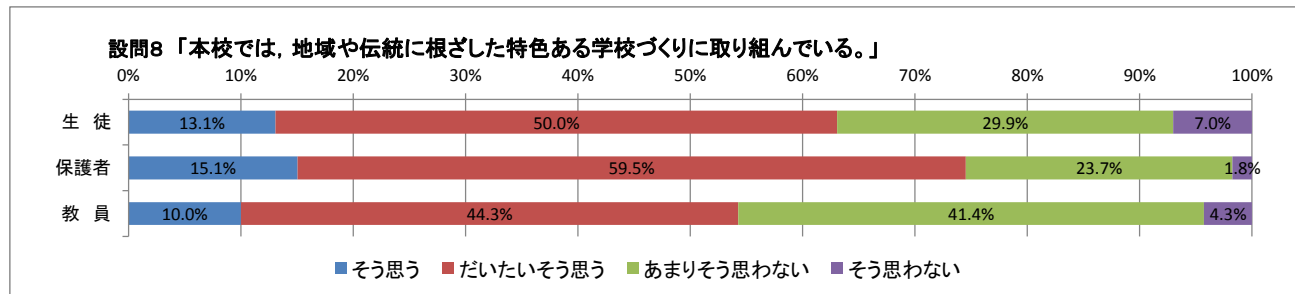
分析と対策

本校の生徒の多くは控えめな傾向にあり、人の前に立って積極的に物事を推し進めようとする者は多くない状況です。そんな中でも生徒会活動の旗振り役である執行部や各種生徒会行事の運営にあたる実行委員等、意欲的に活動している生徒も徐々に増えてきていると思われます。特に今年度からは、生徒会執行部を指導する教員が専任となり今まで以上に生徒達と密接に関わり合いながら活動を支えられる体制になっております。生徒の社会性を養うための重要な活動である生徒会活動を通して、これからも様々な場面でリーダーとなり得る人材を育て学校全体を活性化させていきたいと考えております。



分析と対策

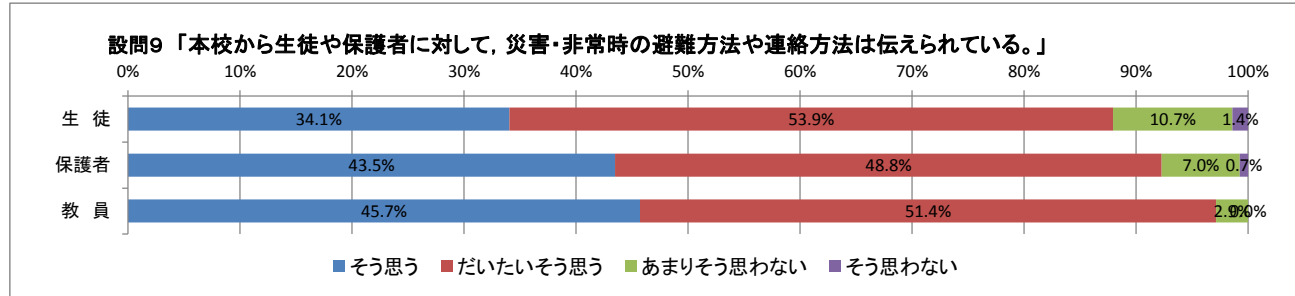
保護者の肯定的評価が比較的高いことが特徴である。一方、生徒の肯定的評価は低く、28%の生徒が「有意義な学校行事はない」とらえていることがわかる。学校づくりの観点からは、この事実は重く受け止めなければならない。「塩高祭」や「体育祭」では積極的に生徒の要望を取り入れるなどの改善を続けているが、まだまだ生徒の主体性を発揮できる場になっていないと考える。また、学校行事の持つ意味についての説明が不足している可能性もある。今後は各行事の活性化をさらに進めるなかで、生徒会活動共々に評価の向上を図りたい。



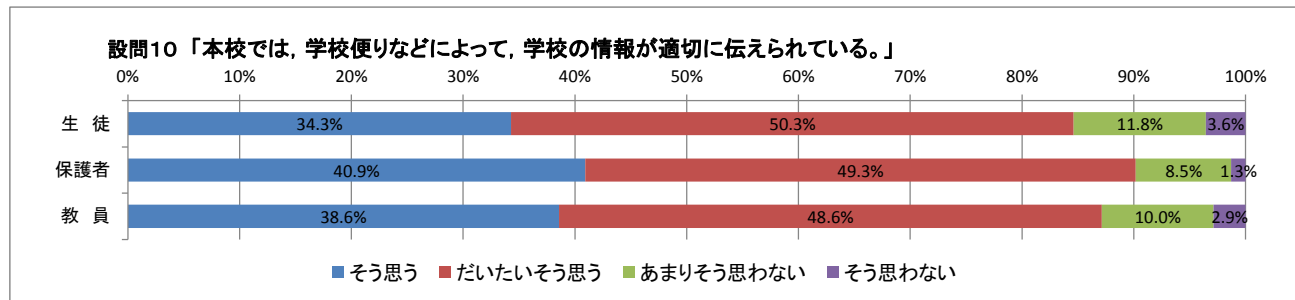
分析と対策

高等学校が地域に根ざすのは、その性質から確かに難しい側面がある。教員の否定的評価が高いのは、その難しさを実感しているからであろう。一方、保護者の肯定的評価は例年7割程度を維持している。部活動単位での地域貢献活動を間近にする機会があるためかと思われる。生徒の評価が毎年芳しくないのは、さまざま行われている活動を目にすることがないためと考えている。他の設問にも関わることであるが、情報が行き渡らないことで評価が下がっている可能性がある。学校生活をより充実させるために情報発信にも取り組みつつ、地元「塩釜」の地の利を得た教材の開発にも取り組むべきである。

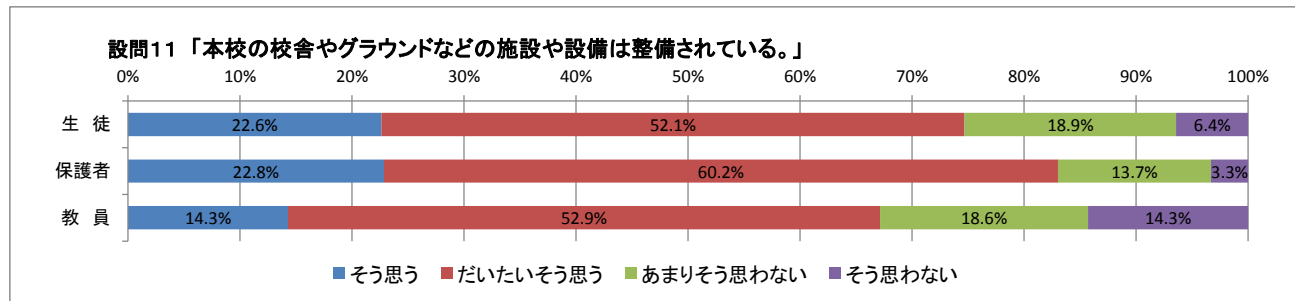
平成29年度 学校評価「設問毎」分析と対策



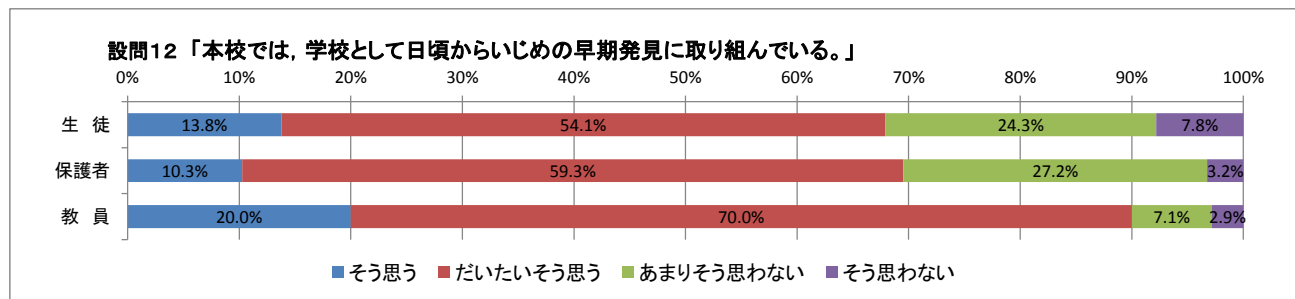
分析と対策
 本校では、防災マニュアルに「防災組織」・「防災管理」・「防災教育」を主要な活動として明記している。本年度は、「Jアラート等作動時の対応」をマニュアルに追加掲載すると共に、生徒・家庭・職員に周知した。また、新入生に対する宮城県防災副読本「未来への絆」に基づいた防災教育や、防災訓練の中でAEDの所在や活用方法に関する防災教育を実施した。さらに、全学年・全クラスに防災係を設置し、生徒自らが防災に携わることができる体制づくりを行った。こうした地道な活動が評価を向上させたものとする。来年度は、生徒の防災係を防災委員会に昇格する予定である。



分析と対策
 本校では、学年からは「学年便り」や「クラス便り」、分掌部からは「生徒部便り」・「進路部便り」・「泉ヶ岡」・「図書館便り」・「PTA会報」・「同窓会報」・「塩高カレンダー」等を配布し、情報提供を行っている。本年度は、学校評価の質問項目に学校便り以外の手段として、ホームページやメーリングリストでの情報提供を追加していただいた。その結果、本項目に対する評価が著しく向上したものと考えられる。手段を明確にすることで、今後も各分掌部・学年の情報提供を継続していきたいと考えている。

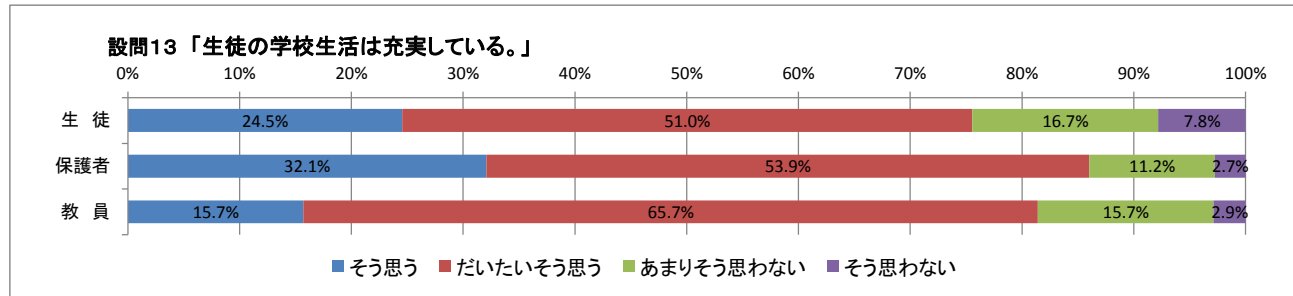


分析と対策
 本校の西キャンパスは築後21年、東キャンパスは築後29年を経過している。いずれの校舎も20年以上使用しており、建物本体のみならず設備の不具合も増えている。中長期的な修繕計画を県に提出するとともに、突発的な不具合についてはその都度予算を要望するなどして修繕を進めているが、本校は2キャンパスを有する大規模校であり、予算面・人的面で対応が追いついていないところがある。予算などの制約はあるが、生徒が安心して高校生活を送れるよう安全な学習環境の整備に努めていきたい。



分析と対策
 本校では定期的にいじめ発見のためのアンケートを実施しており、また日頃のクラス内や部活動内での生徒達の動向を注意深く見守っております。しかし、いじめという性質上、教職員に分からないように進行していくということも否定できません。そのようなことがこの生徒や保護者の肯定的評価があまり高くないということにつながっていると思われます。いじめに関しては特に学校と家庭との協力が重要であると思われます。これからも様々な場面で家庭と連絡を密に合いながらいじめの早期発見と適切な対応に努めていきたいと考えております。

平成29年度 学校評価「設問毎」分析と対策



分析と対策
 学校生活の充実度で生徒の感じる充実度が保護者のものより若干低い結果となっております。日々の学習における授業の難易度や提出課題・家庭学習等、また部活動やクラス行事・学校行事等、やるべきことは決して少なくない状況でこのような結果になるのは、生徒達がしっかりと目的意識を持って取り組めていない場面が多いということの表れだと思われまます。生徒達や保護者の方々の求めているものをしっかりと把握し、生徒達に目的意識を持って取り組ませられるように努め、さらなる学校生活の充実を目指して、生徒達および保護者の皆様や地域の方々と共に歩んでいきたいと考えております。